

地域で子どもを育てる活動発表会～今年度はCSを中心に～

1月15日、遠野市民センター大ホールを会場に、地域で子どもを育てる活動発表会を開催し、学校・家庭・地域の関係者約200人に参加いただきました。この発表会は、学校・家庭・地域の代表や関係者が一堂に会する貴重な機会です。このことから、今年度は、例年行ってきた学校と地域の実践発表に加え、令和4年度のコミュニティ・スクール導入に向けた取組を加速させていく機会とすることを目指し開催しました。

■ 学校・家庭・地域が連携し取り組んできた内容を共有した「実践発表」

はじめに、学校・家庭・地域が連携し行った取組について、綾織小学校PTAの藤原順一さんの進行により、2校から発表いただきました。遠野北小学校PTAからは、あいさつ運動やふるさとの自然とふれあう教育として行った「炭焼き体験」について、児童の感想を含めて発表いただきました。

また、附馬牛小学校PTAからは、児童数及びPTAの会員数が減っている現状を踏まえ、組織改編を行い持続可能な体制としたことや、コロナ禍で制限された中でも実施した、交流行事等のPTA活動について発表いただきました。

いずれの取組も、地域とのつながりを大切にしており、「コミュニティ・スクール」の導入と地域学校協働活動の一体的な推進に向けて活かしていきたい内容であることを会場全体で共有しました。



遠野北小学校PTA（写真上）と附馬牛小学校PTA（写真下）の発表の様子

■ 本市の「コミュニティ・スクール」と地域の体制の方向性を共有した「情報提供」

実践発表の次に、「本市における学校と地域の連携・協働～コミュニティ・スクールと地域の体制づくり～」と題して、市生涯学習スポーツ課の担当者から情報提供を行いました。ここでは、説明したポイントを、抜粋して紹介します。

2 遠野市の学校運営協議会（1）設置の目的

- 地域の皆さんの学校運営への参画を得て
- 学校や地域をとりまく諸課題の対応や遠野のふるさと教育の推進等を進める

遠野の宝である子どもたちの「生きる力」を育むことを目的に設置

2 遠野市の学校運営協議会（2）設置の方針

学力向上の取組は義務教育9年間を見据えて中学校区で実践

遠野の子どもたちの「生きる力」を育むためには9年間の取組を社会で共有し、みんなで参画することが必要

中学校区に学校運営協議会を設置

2 遠野市の学校運営協議会（4）学校部会の位置づけ

学校運営協議会は、義務教育9年間を見据えて、中学校区に設置

- 各学校独自の取組
- 地域理解と文化継承意識の醸成
- 小学校から中学校につながる学びの持続と継続的取組

学校単位で協議し、実行に移しやすい組織の必要性

「学校部会」の設置

協議したことは、「より適切で効果的な連携・協働」

3 地域の体制（3）「小さな拠点」が始まった今がチャンス！

令和3年度から「小さな拠点」が始まったことを受けて、地域の教育に関する組織が重なる事業が生じている。（例：教育委員会と地域教育協議会）
このことで、役員の数や会議の出席回数などの負担が増えている

- 地域における学校の応援団として子どもと学校を支える
- 「学校への地域の想い」を取りまとめる

2つの位置づけがはっきりしていれば…

地域の組織は「地域教育協議会」にとらわれない
（地域運営協議会との統合も可）

地域役員の参加回数が増える

4 導入に向けて（1）これまでの取組と今後の見通し

令和3年度（2023）
「準備の年」

- 制度の周知（説明）
- 協議会発足
- 運営方針の策定
- 地域組織の見直し
- 取組の始動

令和4年度（2024）
「試行の年」

- 協働の運行（4校）
- 学校運営協議会の整理
- コーディネーターの配置
- ふるさと教育を推進する取組を、制度で理解する

令和5年度（2025）
「本格実施」

4 導入に向けて（3）令和4年度の導入に向けて～キーワードは「より適切で効果的な連携・協働」～

- 学校は…
 - 委員の推薦と協議に向けた準備
 - 来年度の会議日程の調整
- 地域は…
 - これまでの活動の整理（必要に応じて）組織の見直し
- PTAは…
 - 従来の活動や地域とのつながりの整理
 - 「保護者の声を取りまとめる」方法の整理

踏まえて

「熟慮体験」で明らかになった「姿」や「できること」

行政は、関係する課が必要に応じて支援していきます
（協議会が主催する行事については、別途要）

情報提供で説明した資料は、市ホームページで公開しています。遠野市ホームページの「コミュニティ・スクールの導入に向けて」のページでご確認ください。



こちらのQRコードからも確認できます。

■ 「まずはやってみよう！」～令和4年度導入に向け思いをひとつにした「パネルディスカッション」～

実践発表の後には、「地域みんなで子どもたちの『生きる力』を育むために～今こそ、学校と地域の連携・協働が必要だ！～」と題して、パネルディスカッションを行いました。パネリストとして、多田喜夫氏（市校長会会長、以下「学校」とする。）、菊池政光氏（市PTA連合会副会長、以下「家庭」とする。）、菊池光氏（松崎町地域教育協議会会長、以下「地域」とする。）の3名をお招きし、3つのテーマで意見が交わされました。

○ これまでの学校と家庭・地域の連携について ～「良い」と思うこと「課題」と思うこと～

3人のパネリストが共通して発言した「良い点」は「『地域の子どもをみんなで育てる』という意識があること」、「学校との距離が近いこと」でした。一方、課題については、「校長によっては地域との距離感が変わってしまうこと（家庭）」、「地域教育協議会を始めとした組織や制度の役割を再確認することやすみ分けを整理する必要性があること（学校、地域）」を挙げていました。



パネリストとして登壇いただいた多田喜夫氏（市校長会会長）

○ 学校・家庭・地域の連携・協働をより一層進めるために ～「学校運営協議会制度」と「地域の体制について」～



パネリストとして登壇いただいた菊池政光氏（市PTA連合会副会長）

はじめに、「学校はこの学校運営協議会制度を導入することについてどう感じているか（家庭）」という質問が出されました。その質問に対し、「校長は孤独。これまで、いろいろなことを一人で悩んでいた。しかし、制度が導入されることでいろいろな人に相談できるようになる。校長の味方が増え、学校の経営や子どもたちに有益である（学校）」と回答していました。

また、小さな拠点と地域の体制に関しては、「地域教育協議会のあり方を見直して構わないという提案は地域にとってありがたい。組織を整理することで会議の回数が減る。これから保育園や児童館、スポーツ少年団など構成する団体や役割の検討を進めていきたい（地域）」と発言がありました。そのほかにも学校運営協議会制度と地域の体制について様々な意見が交わされました。

○ 制度の導入に期待すること

「令和4年度は試行の年との話があった。完璧なものでなくとも、試行錯誤することにより良いものになればと考える（学校）」、「地域で子どもを育てるという観点から非常に興味がある。子どもは地域の宝であることを共有して、できることから取り組みたい（家庭）」、「世の中が大きく変わっている中で『まずはやってみる』ということが大事と考える。みんなで想いをひとつにして、子どもたちのために取り組みましょう（地域）」とそれぞれ発言いただきました。



パネリストとして登壇いただいた菊池光氏（松崎町地域教育協議会会長）

■ 助言「コミュニティ・スクールを活かした学校と地域の連携・協働に向けて」



本市の学校と地域の連携・協働に向けご助言いただいた片方主任指導主事

今年度の発表会のまともとして、県教育委員会生涯学習文化財課の片方主任指導主事から、これからの学校と地域の連携・協働に向けた助言をいただきました。はじめに、「遠野市の学校と地域の連携はそもそも進んでいる。これまでの取組を活かしてコミュニティ・スクールを導入しようとしていることが効果的である」こと。そして、コミュニティ・スクールを導入した学校の「声」や、学校と地域が連携した事例をご紹介いただいたうえで、「先行して導入した学校では、学校の運営や地域の様々な課題の解決に少しずつ活かされている。遠野市においても、より学校と地域の連携・協働が充実するものと期待できる」こと。終わりに、「導入し、取組を進めていくことで学校も地域も元気になる。そして、何よりも子どもたちのためになる。これからの遠野市の取組に期待するとともに、県教育委員会としても、遠野市の取組に注目していきたい」とお話しくださいました。

ご来場いただいた方々からは「遠野市の方向性がわかった」「制度の導入に向け検討を進めたい」と前向きな意見を多数いただきました。これから、市教育委員会でも制度導入に向けた取組等を進めてまいります。

【ひとこと】 今号は、「地域で子どもを育てる活動発表会」特集でしたが、前号から今号の間に、総合教育会議（11月開催）と遠野市議会12月定例会の一般質問で、それぞれ学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）が取り上げられました。市のホームページでそれぞれの様子が紹介されておりますので、こちらもぜひご覧ください。